



食育

だより

No.1

栄養教諭を中核とした
食育推進事業

下野市では、平成22年度「栄養教諭を中核とした食育推進事業」（文部科学省委託）を受けることとなりました。この「食育だより」を通して市の学校給食や児童生徒への食育推進の状況をご家庭の皆様にも紹介していきます。本号では、推進事業の概要や今後の予定をお知らせします。

下野市教育委員会



はじめに

近年、子どもたちの食生活の乱れやそのことによる健康への影響が問題となっています。

下野市で先頃実施した「食生活に関するアンケート調査」でも、食生活や食習慣の乱れによる体調不良や、生活習慣の乱れによる朝食の欠食、といった問題がみられました。子どもたちの健康の保持増進のために学校給食を活用した実践的な取組を、家庭や地域、学校が連携しながら、推進したいと考えます。



小中学校9年間を見通した食に関する指導

小・中学生は学校に通う9年間で約1800回の給食を食べます。下野市の栄養教諭、学校栄養職員は、この9年の間に一人一人に望ましい食生活や食習慣、それにかかわる生活習慣を身につけさせ、食事を通して自らの健康管理の意識づくりをします。そのために、ただ食べるのではなく、食事や食品をバラ

ンスよく食べるための知識、食材の選び方、生活習慣などについて考えたり学んだりする機会を、いっそう充実させていけたらと考えています。

具体的には、栄養教諭や学校栄養職員と担任による「食に関する授業の実施」・「9年間を見通した食育計画の作成」・「授業に活かせる地域の産物の教材資料制作」に積極的に取り組んでいきたいと思えます。



学校給食におけるアレルギー対応の取り組み

下野市の、学校給食における食物アレルギー対応については、昨年度までは各学校毎の対応でした。今年度からは「学校給食における食物アレルギー対応マニュアル」を下に、実態の把握を行い、児童生徒が安心して学校給食を食べることのできる環境づくりをめざしていきたいと考えています。

また、家庭でも安心して日々の食生活を送る知識や情報が得られるよう、小・中学校に通う児童生徒を持つ保護者を対象とした講演会を実施する予定です。



家庭での食育への意識を高めるための取り組み

「食育」という言葉は、新しいものではありません。明治30年ごろ医師石塚左玄が造った言葉です。明治時代からある言葉ですが家庭では身近に使われていません。

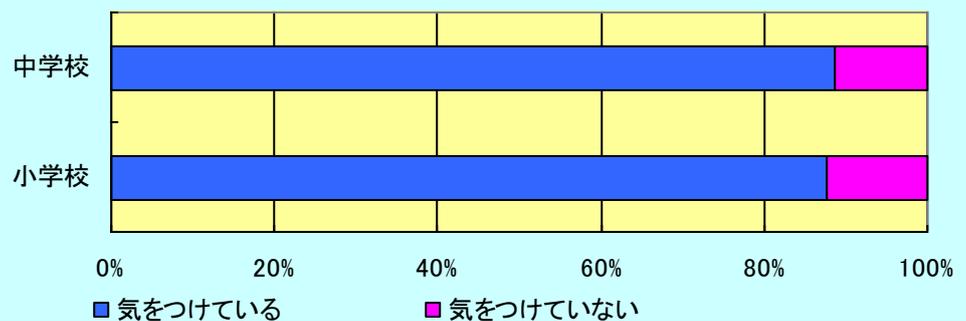
下野市の栄養教諭や学校栄養職員は、「親子料理教室」「郷土料理教室」などの取組を実施し、子どもたちの健やかな心と体の成長のために、「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得する「食育」を家庭や地域、学校が連携しながら、推進したいと考えます。また、健康増進課との連携による講演会の実施も予定しています。ぜひご参加ください。



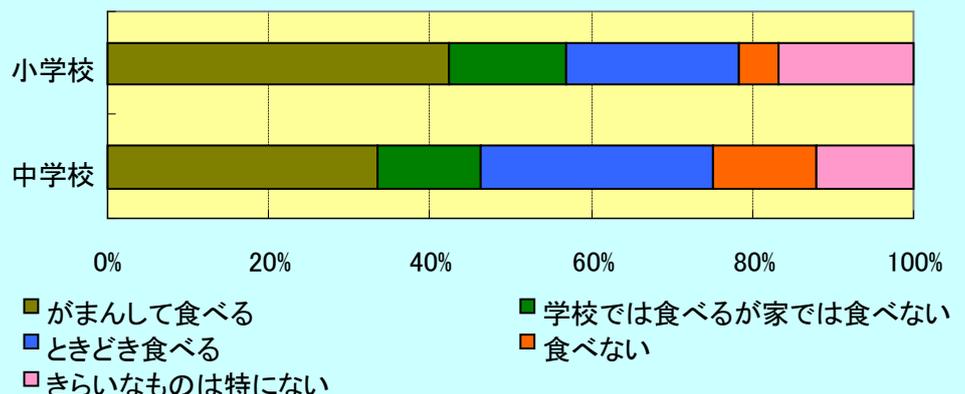
アンケート結果から

先頃、ご家庭の協力を得て実施した「食生活に関するアンケート調査」の集計結果を現在まとめているところです。その一部（下記のグラフ）を見ても、栄養のバランスを考えて食べようという意識の高さはみられるものの、実際の食生活では苦手な食物は食べないことも多いことがわかりました。今後、児童生徒の健やかな身体づくりの基盤となる「食に関する指導」の充実を図るための指導に役立てていきたいと考えています。

栄養のバランスを考えて食べる



食事の時に食べられないものが出たときはどうしますか？



「食」の大切さ

地方伝統の「食」の大切さが、今言われている。

私は新幹線に乗るといつも座席に置いてある旅の冊子に眼を通す。5月号は、東北の麺類についての特集であった。稲作に適さない、寒い、山あいの地には独特の麺文化が伝わっている。永い歴史の中で育まれた食文化である。人は「食」を文化として伝え、守り、その中で人は育まれるのである。

ところで我が下野市には、これだ！という食文化が残っているのだろうか。

この度、国の委託を受けて「栄養教諭を中核とした食育推進事業」が始まった。

子どもも大人も下野市民みんなが豊かな「食」を食して、最高の人生を歩んでいけるようにしたいと思う。

日々の学校給食は、関係者の努力によって充実した楽しいものとなっている。栄養のバランスはもとより地元の食材や季節の食材を取り入れて、下野市ならではの給食である。

同じように重要なのは、日常の「食」に対する私たちの姿勢である。健康に必要な「食」をしっかり摂っているかを判断する知識と知恵であり、地域の食材を生かす工夫、さらに食材が本来もつ美味を見分ける感覚である。

PTA や地域の皆さまとも協力し合いながら、私たち自身のため、また未来ある大切な子どもたちのためにこの事業を積極的に展開してまいりたい。

栄養教諭・学校栄養職員のみなさんをはじめ推進に当たられる関係者には、心から敬意を表します。



(教育長 古口紀夫)

家庭・地域・学校の皆様へ

給食の時間は皆様にとってどんな時間だったでしょうか？いつの時代も給食の時間は、おいしく、楽しく、活力をくれる時間であることと思います。この「栄養教諭を中核とした食育推進事業」は学校給食を起点として、家庭・地域・学校が連携し、「食」についてともに考え、学び、実践していく機会にしたいと考えます。皆様にご参加をお願いする企画もございますので、その際にはどうぞ積極的にご参加ください。よりよい事業とするためにご意見・ご感想などもいただければ幸いです。

